

墓に遺体はなかった

(ヨハネ20:1-10)

一、マグダラのマリヤ

1節をご覧ください。今さて、週の初めの日、朝早くまだ暗いうちに、マグダラのマリヤは墓にやって来て、墓から石が取りのけられているのを見た。とあります。このヨハネの記述に、ヨハネのメッセージを見ることができます。と言いますのは、他の福音書は、「複数の女性が墓に行った」と記しているからです。ヨハネは、マタイ、マルコ、ルカの福音書を知っていたと思われる。ということ、敢えてマグダラのマリヤ一人に絞ったわけです。写真撮影をする際の「引き算」と似ていますね。マグダラのマリヤは、女性の弟子たちを代表していると読むことができます。

二、ペテロと愛弟子

2節に、シモン・ペテロと、イエスが愛されたもう一人の弟子が登場します。それぞれ、走って、シモン・ペテロと、イエスが愛されたもう一人の弟子のところに走って、こう言った。「だれかが墓から主を取って行きました。どこに主を置いたのか、私たちには分かりません。」とあります。ルカの福音書には、
 へ24・9そして墓から戻って、十一人

とほかの人たち全員に、これらのことをすべて報告したとありますので、ここでもヨハネは、「引き算」をしていることが分かります。弟子たちを、敢えてペテロともう一人の愛弟子に——ヨハネでしようか——絞ったわけです。

二人は走って墓に行きました。3節、4節です。ここで、ペテロともう一人の弟子は外に出て、墓へ行った。二人は一緒に走ったが、もう一人の弟子がペテロよりも速かったため、先に墓に着いた。とあります。ペテロはもう一人の愛弟子に比べて、年を取っていたのでありましようか。足が遅かったようです。愛弟子が先に到着しました。ですが、墓の中には入りませんでした。5節です。そして、身をかかめると、亜麻布が置いてあるのが見えたが、中に入らなかった。とあります。先に中に入ったのは、遅れて到着したペテロでした。6節、7節です。彼に続いてシモン・ペテロも来て、墓に入り、亜麻布が置いてあるのを見た。イエスの頭を包んでいた布は亜麻布と一緒になく、離れたところに丸めてあった。とあります。ヨハネは何を語っているのでしょうか。それは、「遺体は無かった。しかし盗まれたのではない」ということです。同じことを、愛弟子も確認しました。8節です。そのとき、先に墓に着いたもう一人の弟子も入って来た。そして見て、信じた。とあります。

ここに、愛弟子がなぜして見て、信じたと記されていますが、何を信じたのでしょうか。ヨハネの福音書が語りんとしていることは、「トマスが信じた」という記述と重なります。愛弟子は、キリストの復活をまだ理解していませんでした。9節にあるとおりです。彼らは、イエスが死人の中からよみがえらなければならぬという聖書を、まだ理解していなかった。とあります。なのに、愛弟子は信じたのでした。

三、信じるとは

ここに私は、信じるとはどういうことなのか語られていると思います。主イエス・キリストを信じるとは、分からないこと、理解できないことがたくさんあっても、信じることです。神はそれを良しとしてくださいます。

先ほどトマスの例を挙げましたが、信じられなかったトマスに、復活の主イエスが現れて語られました。「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見なさい。手を伸ばして、わたしの脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい」と(ヨハネ20:27)。するとトマスは答えました。「私の主、私の神よ」と(同20・28)。すなわち、トマスは「信じた」のでした。すると主イエスはおっしゃいました。「あなたはわたしを見たから信じたのですか。見ないで信じる人たちは幸いです」と(同

20・29)。信じるとは、こういうことです。主イエス・キリストを信じるとは、復活の主を見たから信じられるというものではありません。私共が、「主イエス・キリストを信じます」と心に定めて、口で言い表したときに、目に見えない主イエス・キリストが、見えるようになります。それは、神の霊の働き、すなわち聖霊の働きです。

紀元30年のペンテコステの日以来、聖霊が注がれています。溢れるほどに注がれています。そのことを、ヨハネの福音書はくり返し語っています。「わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渇くことがありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちの水が湧き出ます」(4・14)と。あるいは、「わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」イエスは、ご自分を信じる者が受けることになる御霊について、こう言われたのである。イエスははまだ栄光を受けておられなかったため、御霊はまだ下っていなかったのである」(7・38-39)と。

きょうは復活祭ですが、聖霊降臨日の五十日前でもあります。皆さま、主イエス・キリストを信じ、聖霊の働きを歓迎し、御霊の注ぎを受けようではありませんか。